

## 「第2回 岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議」 議 事 概 要

---

- 【開催日時】 平成28年1月20日(水) 10:00～11:15
- 【開催場所】 岡山プラザホテル 4F「烏城の間(南)」
- 【資料】 資料-1 ミズベリング岡山旭川の開催結果概要  
資料-2 ミズベリング岡山旭川・アンケートを通じて得られたアイデア・意見  
資料-3 旭川水辺再生戦略会議の今後の進め方(案)  
資料-4 各機関による今後の主な取組に関する説明資料  
参考資料-1 旭川水辺再生戦略会議 規約  
参考資料-2 第1回旭川水辺再生戦略会議 議事要旨  
参考資料-3 -集う・憩う・楽しむ水辺-「旭川再生!」の取組み状況  
平成26年11月13日岡山市・国土交通省共同記者発表資料
- 【出席委員】 大森委員、岡崎委員、荒木委員、藤兼委員
- 

### 1. 開催挨拶

大森委員より、下記のとおり、開会挨拶を行った。

大森委員：去年のミズベリング岡山旭川には多くの方が参加し川に親しんでいただいた。また、アンケートでは、多くの方から、継続してほしいとの回答をいただいた。そういう面では、第1回ミズベリング岡山旭川は、素晴らしい成果といえる。

- ・旭川さくらみちの植樹は、岡山市民が望んでいたことで、本当に皆さんに喜んでいただいた。関係者のみなさんに感謝する。
- ・岡山城、岡山後楽園周辺の旭川、これらを核として、岡山の賑わいをさらに大きくしていきたい。
- ・経済界、岡山大学、NPOの皆さんと一緒に行政も取り組み、岡山のよい顔づくりを水辺の整備とともに行いたい。よろしくお願い申し上げます。

### 2. ミズベリング岡山旭川の開催報告

ミズベリング岡山旭川の開催報告について事務局より説明を行った。

(資料-1)

- ・各イベントの開催概要について説明。

(資料-2)

- ・アンケート及びワークショップの結果から、以下の4つの視点があげられる。

『美しい景観の保全と活用』、旭川さくらみちの桜並木の保全、豊かな自然や美しい景観を生かした取り組みなど

『回遊性の向上』、連続性や歩行性の改善、休憩場所の設置、散策・ランニングコース、案内板の設置など

『日常の賑わい創出』、訪れた人が集いとどまれる空間、カフェなど

『継続的な情報の発信』、ミズベリング岡山旭川の開催

## 【意見交換】

大森委員：岡山市民にとって、今までは水に親しむ機会が少し不足していた気がする。例えば、旭川左岸はランニングコースなどがあるが、出石地区周辺の右岸はまだまだ整備が足りない。河川敷の部分にランニング・散策コースなどができると人も歩きやすくなる。

- ・石山公園では、岡山市がオープンカフェなど様々な催しを行い、活気が出てきていると言われる。このような人が楽しめることを続けていきたい。
- ・ミズベリングは、アンケート結果のとおり、是非、継続して開催してほしい。
- ・岡山の景観美のひとつである旭川さくらみちの保全の取り組みは、素晴らしい試みである。岡山河川事務所の努力に感謝している。旭川さくらみちの60年ぶりの植樹は非常に良かった。
- ・石山公園のパークマネジメントについて、市が整備するという視点から、民間にお願いをして活性化を促して、より使いやすいものにするような議論を行っており、これらの動きも考慮していただきたい。
- ・この大きな動きの中で、経済界の参加は不可欠であり、その面では岡山商工会議所にも協力をお願いしたい。
- ・岡山大学には西川アゴラ（西川緑道公園界隈における「まちづくりの拠点」）として、西川を中心に、まちの活性化に協力をいただいている。ミズベリングについても積極的な対応をしていただければありがたい。

岡崎委員：旭川さくらみちの桜並木がこの先ずっと維持されることは大変うれしい。旭川さくらみちの桜を守る会として関係者の皆さんに御礼申し上げる。

- ・旭川さくらみちは、河川敷へ降りる緩いスロープや河川敷が整備されて非常に使いやすくなった。
- ・後楽園西側の散歩道は、大勢の人たちが歩くと少し狭いと感じる。現状ではランニングコースとしては、人が多いと走れない。
- ・石山公園側も緩いスロープができて、河川敷へ降りやすくなったが、急な階段が残っている。急な階段は、今後も残すのか心配している。
- ・河川敷（水辺の回廊）が歩きにくいのは確かである。整備していただけるのは非常によい。
- ・行政にハード面の整備をしていただけるので、民間としては、賑わいが出る何かを考えて協力したい。

荒木委員：ミズベリングの取り組みは、岡山のまちづくりについて画期的な取り組みであり、西川の活性化とあわせて、大学としても非常に重要な取り組みとしたい。

- ・理由として2つあり、1つは、水辺に着目したまちづくりであることが非常に大きな意味を持つ。人々がまちにいながらリゾートが味わえる。アーバンリゾートとしてのまちづくりは先験的な試みだと思う。前進させていけば非常に大きな岡山の魅力づくりにつながる。
- ・2つ目は、岡山を流れる3つの川が生物多様性の宝庫であること。大きな都市の中に清流が流れており、日本全体でも特徴的なほど重要な生物が多様に生息している。これらを強く押し出せば、他都市にない岡山の魅力を出せると思う。その点について大学でも

協力していきたい。

藤兼委員：都市の中でこの旭川の美しい景色とお城を見ながら歩けることはすばらしい。

- ・戦国時代の宇喜多氏から関ヶ原、池田氏の時代、津田永忠の治水、歴史的な背景を思いながらその舞台を歩くと感動を覚える。旭川には、感動を与えるポテンシャルがあると思う。
- ・ミズベリング岡山旭川の開催日の夜は、西川で満月 BAR が開催されていた。また、翌朝は、京橋の河川敷で朝市が開催されていた。水辺はすごく動員力があると思う。上手に連携して盛り上げていければビッグチャンスになると感じた。

### 3. 今後の活動方針

今後の活動方針について事務局より説明を行った。（資料－3）

- ・旭川水辺再生戦略として以下の内容を提案する。
  - ミズベリング等の賑わい創出イベントを今後も継続するとともに各機関が連携協働して岡山城・岡山後楽園周辺の賑わいの拠点づくりに取り組む。これを概ね平成31年度までに集中的に取り組む。
    - 旭川水辺空間再生の方向性を中心として、アンケート結果の4つの視点を踏まえて、市民と連携協働して取り組みを進めていく。
    - 平成26年11月13日岡山市・国土交通省共同記者発表資料の取り組みに加え、岡山商工会議所、岡山大学、岡山県の取り組みを行う。
    - イベント等から得られる意見、アイデアは、旭川水辺再生戦略会議で報告・方針の確認をするとともに、市民、NPO等との連携・協働を図る。
    - 岡山後楽園・岡山城等連携推進協議会等との情報共有・連携を図る。
- ・第3回旭川水辺再生戦略会議は、H28年7月から8月頃に開催予定。各機関の実施報告や、今後の事業内容について議論する。

### 4. 各機関による今後の主な取組について

各機関による今後の主な取組について事務局より説明を行った。（資料－4）

#### 【ソフト事業】

- ・ミズベリングの継続開催（旭川水辺再生戦略会議構成機関 他）
- ・マップ作成（岡山商工会議所、岡山市、岡山河川事務所）
- ・第1回旭川かわまちフォトコンテスト（岡山商工会議所）
- ・回遊性に係るモニタリング（岡山大学）

#### 【ハード事業】

- ・「旭川さくらみち」の取組（岡山河川事務所）
- ・「旭川さくらみち」の取組（岡山市）
- ・災害につよい川づくり、まちづくり（岡山河川事務所、岡山市）
- ・水辺の賑わいと、回遊性の向上（岡山河川事務所、岡山市）
- ・案内看板のリニューアル（岡山県、岡山市）

## 【意見交換】

大森委員：ハード整備は重要であり、岡山市と岡山河川事務所で協力して出石地区の改修、水辺の回遊路の凸凹をなくすことなど、是非対応していただきたい。

- ・今年の秋は、第2回岡山マラソン、岡山芸術交流（O k a y a m a A r t S u m m i t 2016、おかやま国際音楽祭の10周年など様々なイベントが予定されている。これらとどう連携するのか議論していきたい。
- ・水辺再生のアプローチに加えて、人の生活面や楽しみ方、そういう側面からのアプローチをどう捉えるかについて一度議論させてほしい。

荒木委員：市長の言われた水辺と人の関係は世界的にも注目されている大きな視点であると思う。その視点を通じて、この取り組みの画期性や革新性をクリアにしていただきたい。

- ・マラソン、アートなどの試みとミズベリングが上手にリンクするように考える必要がある。
- ・岡山大学としてモニタリングなどソフト面の協力を行う。国際的な比較を念頭に置いた形で、岡山で画期的な意義のあることができるのではないかと思う。今後検討したい。

岡崎委員：イベントだけでは、魅力の向上は難しい。イベントは人が集まるため、開催時に旭川の魅力を感じ、後から日常的に楽しむきっかけとするなど、日常的に皆さんが来て楽しめる場所にしたい。我々としても、その方面での協力をしていきたい。

- ・周辺の美術館、博物館などでカルチャーゾーンとして協議会有り、情報交換などを行っている。この協議会なども含め、関連のあるところは、皆で連携を取りながら相乗効果を発揮していくとよいと思う。

藤兼委員：ハード整備をしっかりと行う。

- ・アートイベントでは、川は広さがあるため、表現の場として使えるのではないか。調整は必要かもしれないが、都会の中の広いスペースをうまく活用して表現したい人はいると思う。表現の場として活用することで旭川の魅力も上がると思う。
- ・日常的に行きたい川、観光客にもロコミで伝わり、訪れたい川にしたい。それだけのポテンシャルは間違いなくある。

大森委員：平成26年に、イマジニアリングと称して現代アートの社会実験を行った。その中の一つとして、旭川を使ったパフォーマンスを行い、好評を博した。これだけの空間は非常に大切だと思う。

- ・岡山市のオリエント美術館と県立美術館がお隣美術館として一緒に何かを企画する動きがあり、議論を進めている。旭川の取り組みの話も協議の場に出して、どのような一体性を図ることが可能か議論したい。

司 会：本会議の今後の活動方針、主な取り組み（資料3、資料4）について、本日の意見を踏まえて進めることにご了解をいただけますか。なお、ご欠席の三村委員には事前説明を行い、ご了解をいただいています。

委 員：異議なし

## 5. 閉会挨拶

藤兼委員より、下記のとおり、閉会挨拶を行った。

藤兼委員：今後もチャレンジをしながら、戦略を見誤らないように旭川水辺再生戦略会議で確認しながら進めたい。色々な人の意見を聞くことは、アイデアも出るし、大事なことだと考える。引き続きよろしくお願ひいたします。

以 上